

済生会小樽病院看護部クリニカルラダー「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」

看護の核となる実践能力：看護師が論理的な思考と正確な看護技術を基盤に、ケアの受け手のニーズに応じた看護を臨地で実践する能力

定義	レベル		I	II	III	IV	V
	レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力	【レベル毎の目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえたニーズをとらえる
		【行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながら、診療記録上の情報を確認し、患者の訴えや観察をもとに身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 助言を受けながら、患者の状態に合わせてバイタルサイン等の観察をし、基本的なフィジカルアセスメントを行うスピリチュアルな側面については、治療についての考え方や方等の情報を得ることができる <input type="checkbox"/> 患者の状況から緊急度をとらえ、助言を受けながら緊急度に応じた観察をし、必要な情報を得ることができる	<input type="checkbox"/> 自立して入院時から診療記録上の情報を確認し、患者の訴えや観察をもとに身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集をすることができる <input type="checkbox"/> 診療記録など決められた枠組みに沿った内容について、多職種から情報収集を行うことができる <input type="checkbox"/> 自立して患者と関わり、情報収集をもとに、顕在化している身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面を関連づけて患者の課題をとらえることができる <input type="checkbox"/> 患者の状態に合わせて正常か異常かがわかる	<input type="checkbox"/> 診療記録など決められた枠組みに沿った情報収集だけでなく、個別性を踏まえ、多職種からの情報も得て、患者にとって必要な情報収集を行うことができる <input type="checkbox"/> 正確なフィジカルアセスメントができる <input type="checkbox"/> 情報収集をもとに、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面のあらゆる情報から総合的に患者をとらえることができる <input type="checkbox"/> 患者の状態に合わせて、標準的な観察項目に関する観察ができるだけでなく、各項目について観察する意味と観察項目間の関連を理解し、必要に応じて観察項目を追加したり、異常値の出現時に対処ができる	<input type="checkbox"/> 患者の疾患の予後や退院後の生活等の予測的な状況判断のもと、必要な情報を収集することができる <input type="checkbox"/> 患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で、患者の家庭での役割、仕事の内容、疾患に対する思い等を意図的に焦点化して確認したうえで、収集した情報を統合してニーズをとらえることができる <input type="checkbox"/> 正確なフィジカルアセスメントだけでなく、患者の状況の原因までを予測しとらえることができる <input type="checkbox"/> 患者から症状の訴えがあった場合、原因としてあらゆることを想定して患者の体内で起きている現象を考えながら、意図的に観察し、アセスメントできる	<input type="checkbox"/> 複眼的な視点から迅速に患者の状況をとらえ判断し、複雑な状況や多様なニーズをとらえ、必要な介入を判断できる <input type="checkbox"/> 患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で、患者を取り巻く多様な人々をもつ情報の重要性を理解し、情報収集して患者と家族（または患者を取り巻く人々）の価値観とすり合わせ、多角的な側面からニーズをとらえることができる <input type="checkbox"/> 地域全体を俯瞰して、ニーズに対して不足している機能に気づき、他施設等に働きかけることで解決を図ることができる
ケアする力	ケアの改善・ケアの提供・安全・感染・病態把握・薬剤の取扱・救命救急	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
		【行動目標】	<input type="checkbox"/> 患者の状態に合わせて、助言を受けながら手順をもとに、説明を患者に行い、ケアを実施できる <input type="checkbox"/> 患者に対して基本的な生活行動の援助を行う重症患者や医療依存度の高い患者については、指導を受けて実践することができる <input type="checkbox"/> 基本的看護技術については、新人看護職員研修ガイドラインにおける、看護技術についての到達目標が達成できる <input type="checkbox"/> 急変時には、対応の場において、流れを把握し、指示を受けながらメモをとる、バイタルサインを確認するなど、できることを探して実践できる	<input type="checkbox"/> 患者の既往歴、年齢、性別、社会的役割等を考慮して、標準的な看護計画を追加・変更し、自立してケアを実践することができる <input type="checkbox"/> 重症患者や医療依存度の高い患者に対しても自立してケアを実践することができる <input type="checkbox"/> 患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得て、状況に応じた援助を実践することができる <input type="checkbox"/> 観察して患者の状態を把握し、必要に応じて時間調整や疼痛コントロールなどを実践してからケアを行うことができる <input type="checkbox"/> 患者に対して指導をする場合、一般的な内容について、網羅して説明することができる <input type="checkbox"/> 急変時には、指示されたケアを責任をもって実践できる	<input type="checkbox"/> 患者の入院前からの習慣についての情報を考慮した生活行動援助を計画・実践することができる <input type="checkbox"/> 患者に対して指導をする場合、患者の生活習慣や価値観、希望などを考慮して説明することができる <input type="checkbox"/> 患者のニーズを的確にとらえられることで、複数の患者を受けもつ中で、優先順位を正しく判断し、ケアを実践できる <input type="checkbox"/> 急変時には落ち着いて対応し、家族（または患者を取り巻く人々）等に配慮することができる	<input type="checkbox"/> 患者に対し、疾患の予後と治療による影響と患者の生活を考慮し、幅広い選択肢の中から適切なケアを提案・実践することができる <input type="checkbox"/> 患者に対して指導をする場合、予測的な視野を持ちながら、患者の反応に応じて段階的に説明することができる <input type="checkbox"/> 患者の生活の中で起こりうる課題や症状について予測した上で、患者の思いや理解度を確認しながら、対処方法や予防方法を説明することができる <input type="checkbox"/> その際、患者の生活習慣や価値観等、希望を考慮して、幅広い知識から様々な手段を提案する <input type="checkbox"/> 急変時には、原因や今後の展開を予測しながら、患者および家族（または患者を取り巻く人々）への対応と今後への準備ができる	<input type="checkbox"/> どのような複雑な背景や状況にあっても、最適なケアをすることができる <input type="checkbox"/> コミュニケーションに長けており、各患者に最適な対応ができる <input type="checkbox"/> ケアの開発のための努力を継続して行うことができる <input type="checkbox"/> 患者の疾患の予後と治療による影響により、患者の希望に沿った生活が困難な状況であっても、患者の希望や価値観、尊厳を尊重し、新たな生活の可能性を広げるケアを提案す流ことができる <input type="checkbox"/> 急変時には、複雑な病態の患者においても、原因や今後の展開を予測しながら、患者及び家族（または患者を取り巻く人々）への対応と今後への準備ができる

済生会小樽病院看護部クリニカルラダー「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」

看護の核となる実践能力：看護師が論理的な思考と正確な看護技術を基盤に、ケアの受け手のニーズに応じた看護を臨地で実践する能力

定義	レベル		I	II	III	IV	V
	レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	協働する力	【レベル毎の目標】	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
		【行動目標】	<input type="checkbox"/> 看護チームの一員であることを理解し、日々の患者へのケアを、他の看護師と協働して行う常に自らのもつ情報を他の看護師に連絡し、患者の状態について報告し、判断できないことや経験のない処置やケアについて相談することができる <input type="checkbox"/> 多職種（医師、看護師、専門・認定看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、緩和ケアチーム、RSTチームなど）の役割を理解することができる <input type="checkbox"/> カンファレンスに参加し、発言することで、自らのもつ情報を提供して関係者と共有することができる	<input type="checkbox"/> 患者に関わる多職種の役割を理解し、必要に応じて多職種の協力の必要性に気づくことができる <input type="checkbox"/> 患者の疾患の現状、検査結果、治療方針を担当医と確認し、患者の訴えや受け止めている思いを医師に伝える看護チームに情報共有し、看護の方針を確認できる <input type="checkbox"/> カンファレンスに参加し、積極的に発言することで、患者の思いや希望等の必要な情報を関係者と共有することができる	<input type="checkbox"/> 患者の個別的なニーズに対応するため、関係者と協力し多職種連携を進める患者の現在ある状況をとらえ、必要な職種がわかり、協力を求めることができる <input type="checkbox"/> 入院時から、退院後の生活場所について、多職種に提案する等の調整を行うことができる <input type="checkbox"/> 協働する看護師に積極的に情報共有することができる <input type="checkbox"/> 治療方針や検査結果、ケアの内容を多職種で共有し意見を聞くことができる <input type="checkbox"/> 定期的なカンファレンスだけでなく、必要なタイミングを見極めてカンファレンスを開催することができる <input type="checkbox"/> 患者や家族が治療に協力できる工夫を行うために、カンファレンスに参加できるように働きかけることができる	<input type="checkbox"/> 診療報酬などの社会制度も理解した上での調整ができる <input type="checkbox"/> 多職種との連携において、病院内だけでなく病院外との調整ができる <input type="checkbox"/> 多職種間の連携においては、各職種が役割を効果的に発揮できるように、各職種の役割を明確化し、患者に関わることのできるような連携を促進することができる <input type="checkbox"/> カンファレンスにおいては、連携が促進されるようファシリテートすることができる <input type="checkbox"/> 患者に対し、起こりうる課題を予測して専門・認定看護師などの専門家の関わりを提案し調整することができる	<input type="checkbox"/> 連携にあたっては全体を俯瞰し、まわりを動かすことができる <input type="checkbox"/> 多職種を中心的に巻き込み、各職種が役割を効果的に発揮できるように、各職種の役割を明確化し、チームの目標を共有し、結束して関わることのできるような連携を促進するカンファレンスにおいては、中心となって各職種を尊重しながら、問題解決へ導くことができる <input type="checkbox"/> 看護チーム内では、看護師が役割を効果的に発揮できるように調整を行うことができる <input type="checkbox"/> 多職種との連携において、病院内だけでなく病院外との複雑な調整ができる <input type="checkbox"/> 自施設に不足している機能に気づき、補完するために資源を活用できる
看護の核となる実践能力	意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
		【行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながら、患者や家族（または患者を取り巻く人々）の不安を推察し、思いを聞くことに努める必要があると気づき、思いの表出を促すことはできなくとも、訪室して患者と家族（または患者を取り巻く人々）に寄り添うことができる <input type="checkbox"/> 患者や家族（または患者を取り巻く人々）の思いや考え、希望を聞き、その希望をリーダー看護師等に伝えることができる	<input type="checkbox"/> 患者と家族（または患者を取り巻く人々）から希望を聞いた際には、その希望の背景や理由についても確認することができる <input type="checkbox"/> 患者や家族（または患者を取り巻く人々）の思いや考え、希望をケアに関連づけ、ケアに反映させることができる <input type="checkbox"/> 説明に対する患者や家族（または患者を取り巻く人々）の認識と医療者の認識とのずれに気づき、追加の説明等調整することができる	<input type="checkbox"/> 療養の場や治療・検査について、選択肢の特徴が説明でき、患者や家族（または患者を取り巻く人々）に提案するなどして意思決定を支えることができる <input type="checkbox"/> 患者と家族にとって、何が大事なのかという価値観、生き方、意向を引き出し、それぞれの気持ちを聞くことができる <input type="checkbox"/> 患者と家族、両者の意向が異なる場合においても、両者の思いを理解し、患者と家族の現在ある状況を多職種に代弁することができる <input type="checkbox"/> 患者と家族がそれぞれ個人の中に持つ複数の思いや気持ち、価値観に寄り添うことができる <input type="checkbox"/> 患者の訴えを表面的に受け止めず、思い込みではない判断ができる	<input type="checkbox"/> 患者と家族（または患者を取り巻く人々）の気持ちを引き出したり、意思決定プロセスを促進させることができる <input type="checkbox"/> 患者と家族が自ら決定できたり考えたりすることができるように積極的に関わることで、意図的に医療チームを動かし、意思決定プロセスを支援できる <input type="checkbox"/> 患者と家族（または患者を取り巻く人々）の思いは日々変化していることを念頭に、多角的な視点から患者と家族（または患者を取り巻く人々）を尊重し寄り添い続けることができる <input type="checkbox"/> 複雑な意思決定場面において、患者の尊厳を尊重した意思決定のために、適切な資源を積極的に活用し、調整できる	